

24. 土曜日の児童学習会

団体名： 特定非営利活動法人 教育支援・門真っ子

代表者： 長野義彦

① 活動の目的 (NPOとしての3事業)

学習環境の恵まれない門真市域の児童に対して、教職員OBを中心としたボランティアによって学校休業日の土曜に学習会を開く^①。

また、NPOの活動として児童の生活や学習についての保護者の困りごとに対して相談に応じる^②。学校からの求めに応じてサポートをするなど教育支援を行う^③。

② 活動概要

私たちは多くが永年門真市内の公立学校で教職に関わり、その中で市域の子どもたちが学習環境に恵まれずに家庭学習が十分でない実態を憂慮していました。

また、市内の教職員団体が平成14年に行った「門真市生活学力実態調査」の報告に於いて市域内の状況が経済的・文化的に厳しい状況に置かれていること。その結果、大阪全体の中でも門真の子どもたちの学力がしんどい状況にあることを指摘し、学力向上のため地域のおとなに対して学びの支援が要請されました。

この呼びかけに応じて、教職員OB有志が学習支援組織を立ち上げることを計画し、平成16年児童の学習支援のためのNPO準備会をたちあげました。翌17年5月に市内2小学校の希望する児童約40名で学習会を開きました。

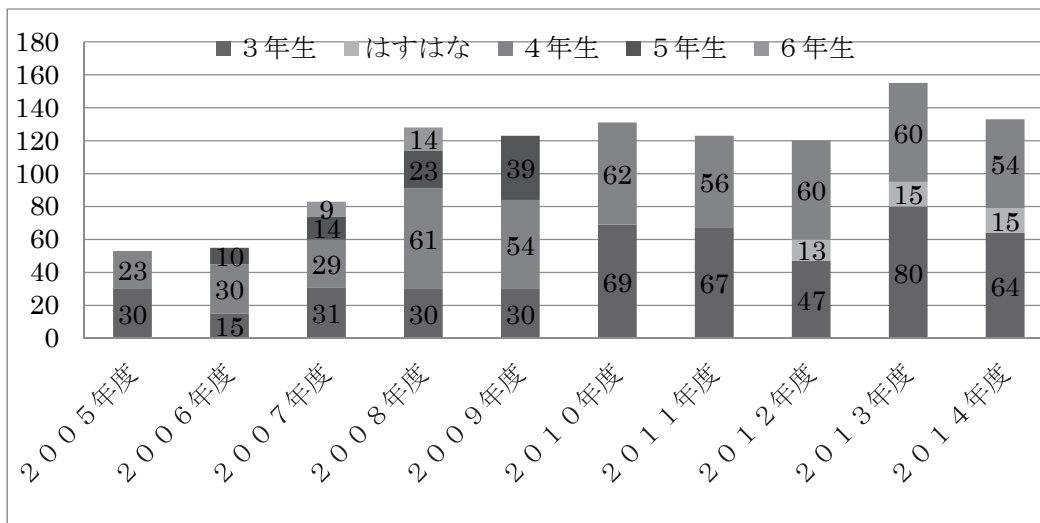
その後「門真っ子学習会」が市内で広く知られるようになり、他の学校の保護者からの要望に応じて学年や対象の学校を拡げてきました。現在では市内14の全小学校から希望する児童を受け入れ、10年間にのべ1000名を超える児童が参加してきました。

活動に共鳴してボランティアとして活動に参加してくれる仲間が増え、さらに保護者や市民、学生も加わり、手厚く子どもの学習活動に付き合うことができました。

学習会は毎週土曜日(4月と8月を除く)の午前中2時間行い、主として国語と算数の授業を年間では35回実施しています。

保護者に対する相談活動は随時行っています。また、学校サポートでは「郷土学習—市内巡り」時の講師や少人数指導の補助などに協力をしています。

◆参加児童数の推移



上記グラフのように参加児童数が年々増えて、現在は2か所（市立市民プラザ・市立はすはな中学校）で5つの教室に133名が参加していますが、希望者はさらに多く全員を受け入れることができないことが悩みです。

「門真っ子」は単なる学力補充のための教室ではありません。勉強が分かるようになり、学ぶことが楽しくなることで自ら学ぶ子どもを一人でも多くしたいという願いを持っています。

そのため、学校でもなく「学習塾」でもない「一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもの学びの手ほどきをする」ことを目指しています。30名のクラスに3～8名の指導者がつくので分からないことやつまずきはすぐに対応をしてもらえると好評です。

教材はボランティアがグループに分かれて作成をした“自主教材”です。子どもたちが興味を持って取り組めるよう、また、苦手な内容を学べるよう工夫しています。

授業料は取りませんから、活動に要する資金は私たちの会費や寄付金で賄っています。少しでも保護者の負担を軽減して、一人でも多くの子どもを参加させたいとの考えからです。

[学習会風景 左/ 3年国語 中/ 3年算数 右/ 4年国語]



(黄色のベストはボランティア指導者です。一つの教室に3～8名の指導者がつきます。)

③ 決算報告書

—平成 25 年度（自平成 25 年 4 月 1 日～至平成 26 年 3 月 31 日）—

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000
	正会員・賛助会員会費	124,000
	寄付金	400,000
	学習会参加費（教材実費、傷害保険料）	314,000
	学校サポート（謝礼金）	5,000
	雑収入（預金利息）	227
	合計	943,227
支出	教材等作成費（用紙費）	25,298
	※印刷インク、トナーは過年度購入済み	
	教材・教具費（コンパス等教具）	7,728
	消耗品費（学習会用、写真印刷等）	45,243
	旅費交通費（ボランティア交通費の一部補助）	200,010
	児童保険料（普通傷害保険料）	160,140
	通信費（インターネット、郵送費）	93,089
	家賃（事務所借用料）	24,000
	会議費（会議室借用料）	4,200
	租税公課費（門真市 NPO 協議会会費）	5,000
	交際接待費	12,000
	消耗品費（ベスト、腕章購入費）	102,340
	合計	679,048